

# 新しい教育の創造にむけて

## 研究校紹介

### ティームティーチング による指導法の研究 広野町立広野小学校

管内唯一のオープンスペースを持つ学校として改築されてから七年目を迎えました。「一人一人を生かす学習指導」について、問題解決的な学習指導法の工夫・改善に焦点をあて、「全児童を全教師で」をモットーにして研究を進めています。その研究の一端を紹介します。

二年生の国語科では「紙人形をしよう」を取りあげ、学級担任三名、教科担任一名で実施しました。ここでは六名編成のグループごとに紙人形を作成し、本時はグループごとにめあてを決めて練習をしたり、グループごとの発表を聞いて話し合ったりする学習でした。教師の役割分担で最も苦勞したのは、グループごとにめあてを持たせる段階で、教師の援助を必要とするグループへどのようにかかわればよいのかということでした。

また、四年生の社会科「安全なくらしを守る」の学習では、「学習カー

ド」に児童一人一人が、学習計画を作成しました。体験したりして学習を進めました。学習コーナーごとに準備された学習材を使って調べたり、学習コーナーごとに三人の教師がつき、児童の学習の相談にのったり支援したりし、他の一名の教師は全体の指導と学習状況のチェックをしました。

このような研究を進めてきた結果、学級担任十一名のチーム編成による指導が効果的であることがわかりました。また、チームによる話し合いを通して、児童理解や教材研究が



T・T授業風景

深まり、役割分担を明確にした指導がしやすくなりました。今後は更に全教科に研究を広げていく計画です。

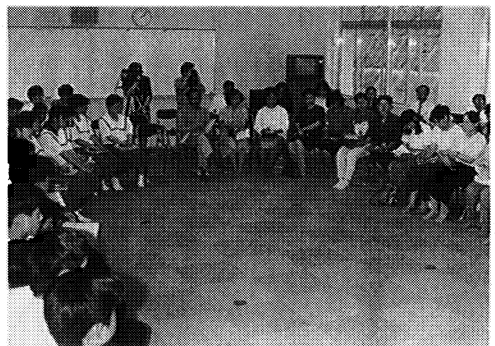
### 親子ディスカッション による道徳教育 原町市立原町第三中学校

本校は、平成四年度より二年間、道徳教育推進校として文部省の指定を受け「豊かな心を育て、実践力を高める道徳教育」を研究主題として設定し、研究を進めています。

激しく変化する社会の中で、生徒が、自主的・自発的に道徳的行為に取り組み手立てを工夫したり、家庭・地域社会との連携を深めたりすることによって、実践力のある生徒の育成をめざしています。

研究の視点の第一は、望ましい人間関係を重視した道徳の授業の工夫、第二は、一人一人の生徒が、豊かな体験ができるような機会や場の設定、第三は、家庭や地域社会との連携の図り方についてです。

家庭や地域社会との連携を深める方法の一つとして「親子ディスカッション」を行っています。初めのは生徒も親も緊張のためか遠慮がちに発言していましたが、回を重ねるに従い、授業をもとにした自由な



親子による熱心な討議

話し合いができるようになってきました。

主題名「働く尊さ」の学習の後で、生徒から「今まで親の仕事の辛さをあまり知らなかったが、今日の学習を通して見方が変わり、父母を誇りに思うようになった。」とか、父母からは「働く尊さを理解し、やりがいのある仕事を選択しようとしている。」などの意見が出されました。

今後は、一人一人の生徒が個性を十分に発揮し、豊かな心を持ち楽しく学校生活を送ることができるよう、教師と生徒、生徒同士によりよい人間関係を確立しながら、道徳教育の研究推進に一層の努力をしていこうと考えています。